

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部平成30年度秋季講演会 『エネルギーの地産地消で、岩手県はどう発展するか』 (シリーズ岩手を知る (第15回))
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	平成30年10月20日(土) 15:00~16:45
場所	エスポワールいわて(盛岡市中央通1-1-38)
参加人数等	参加者56名 (技術士:50名 一般:6名)

活動内容

【講師】北村 和也氏
日本再生可能エネルギー総合研究所 代表

初めに講師の北村氏よりエネルギーをめぐる情勢について説明があった。再生可能エネルギーは世界では主流となっており、その理由としては「発電に元手がいらなく、安いエネルギーであること」というお話があった。日本では、世界ほど価格は下がっていないが、今後は再生可能エネルギーの価格が下がっていくということが説明された。特に、RE100という再生可能エネルギー100%を目指す世界の企業団体に、世界の大手企業がこぞって参加している。日本ではまだ11社の加盟であるが、加盟することがトレンドとなっており、再生可能エネルギーと企業活動は切り離せない関係となっている。また、近年頻発する災害の中で、大規模停電などの対策のため地域で再生可能エネルギーを持つことも、BCPの観点から大切なことである。

これらを踏まえ、岩手県の再生可能エネルギーに関するお話があった。エネルギーの地産地消とは「自給自足」ではなく、再生可能エネルギーの付加価値を地元に残すことが重要であり、そのためには地域の会社がこれらを営むことが大切であるとのことであった。

具体例として、久慈地域エネルギー株式会社に関して紹介いただいた。久慈市内の民間業者および久慈市がエネルギー事業を営んでいる。また、久慈市には、久慈バイオマスエネルギーという日本最大級のバイオマスエネルギー会社があり、この会社と協力しながら事業を進めていくとのことであった。

これから再生可能エネルギーの重要性はますます高まっていくと感じた。日本の中でも岩手県は再生可能エネルギー界をリードするポテンシャルがあると考えられ、久慈地域エネルギー株式会社を含む、県内の再生可能エネルギー関連会社がますます発展していくことを期待したい。

(記: 森 千夏)



講師 北村 和也氏



会場の様子